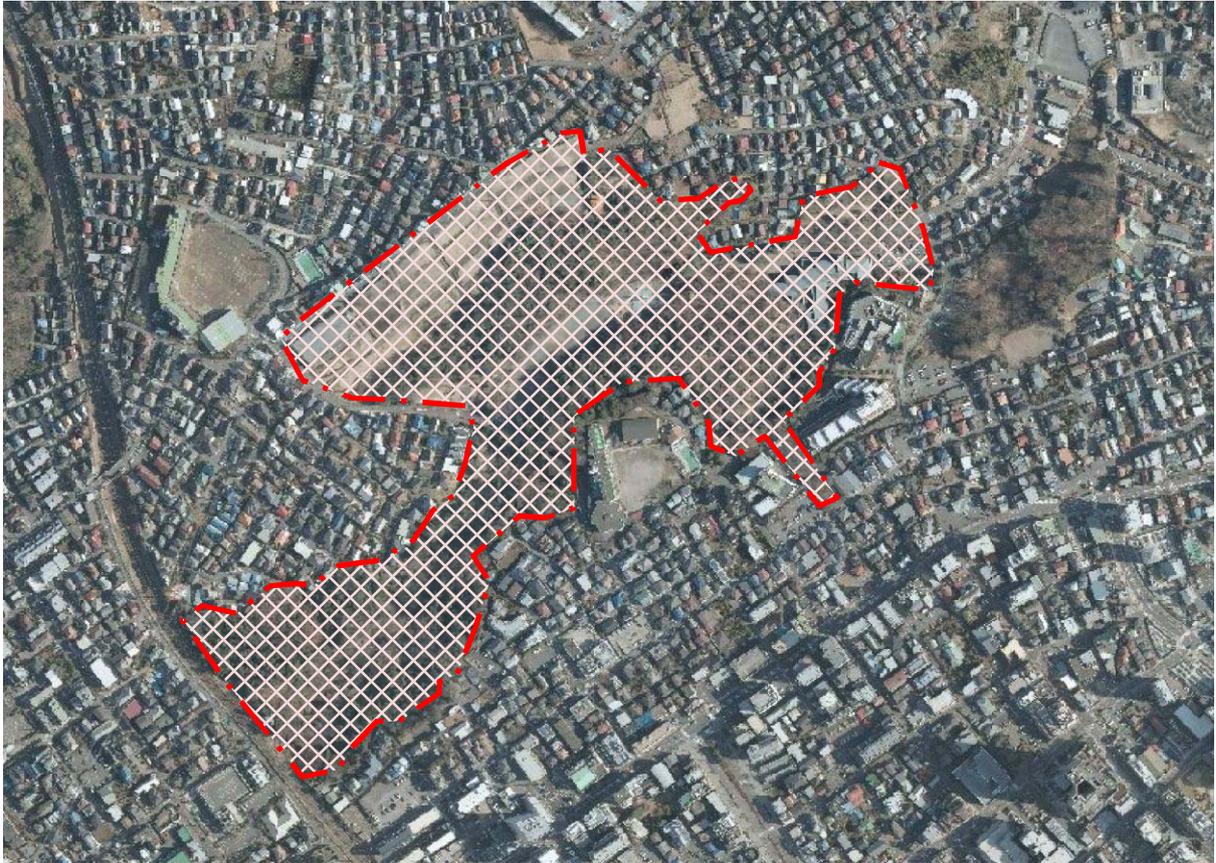


(6) 環境保全と管理に関する検討と設定

①環境保全と管理の考え方

公園再整備にあたっては、原地形を維持し、動物生息環境保全、湧水の保全に配慮する。特に生物多様性の保全の観点から、樹林地の多様な管理のありかたを検討する。

■計画対象地の空中写真



【植生の概要】

- 薪や炭に利用されなくなり、落葉樹から常緑樹へと植生が変わった。さらに、開園後 30 年以上が経過し、常緑樹が大きく育ったため、園内全体が暗い印象を与えている。

【公園園地の植栽管理の考え方】

- 遊具、ベンチ、園路周辺の植栽については、その成長により死角が生まれている箇所がみられ、防犯上問題視されている。安心して利用できるよう、過密している植栽の改善を図る。
- 成長し過ぎた灌木の高さの制限、中高木については倒木等を防ぐための間伐や伐採などを行っていく。
- 花木、紅葉の美しい樹種への転換により、季節感を感じられる植栽を行い、花壇などの増設を検討していく。

②植生管理方針の設定

本公園は、谷戸を活用した公園であり、谷戸斜面地は豊かな樹林が形成されている。植生は斜面の方位により違いがある。方位は概ね北東～東向きと南西～西向き斜面に大別できる。

【北東～東向き斜面の現状】

北東向き斜面は、中央の谷戸を挟んで町田市街地側の斜面地で、傾斜度は南西側斜面と比較して傾斜がやや急であることが特徴で、一部の急峻な斜面では崩落の形跡が見られる。また湧水の湧出地点が南西側斜面よりやや多い。

亜高木層、低木層は南西側斜面ほどの発達は見られない。陽光に乏しいため暗い印象があり、特に小田急線近い斜面、町田市立国際版画美術館裏の斜面では谷が狭く、特に日照が少ない。

低木層、草本層の発達が見られないため、林床が乾燥しやすいこと、急峻な斜面がやや多いことなどから小さな崩落や、漂流水による浸食などが散見でき、表土の安定性に欠けていると考えられる。

植生はクヌギーコナラ二次林にシラカシ、アラカシなどの常緑樹が入った常緑樹、落葉樹の混交林だが、南西側斜面に比べると常緑樹の大径木が少ない。

北東～東向き斜面の林内の状況



【南西～西向き斜面の現状】

中央の谷戸を挟んで、都営跡地側の斜面地で、北西向き斜面に比べ傾斜がやや緩やかである。植生は北東向き斜面と同じクヌギーコナラ二次林に常緑樹の入った混交林だが、高木層、亜高木層、低木層が発達して、全体に樹林密度が高い樹林となっている。北西斜面より日照が多いが、樹林密度が高いため、林内に入ると暗い印象がある。

谷が広がっている多目的広場周辺では、低木層の発達が顕著で、林縁部を中心にアズマネザサが繁茂している。

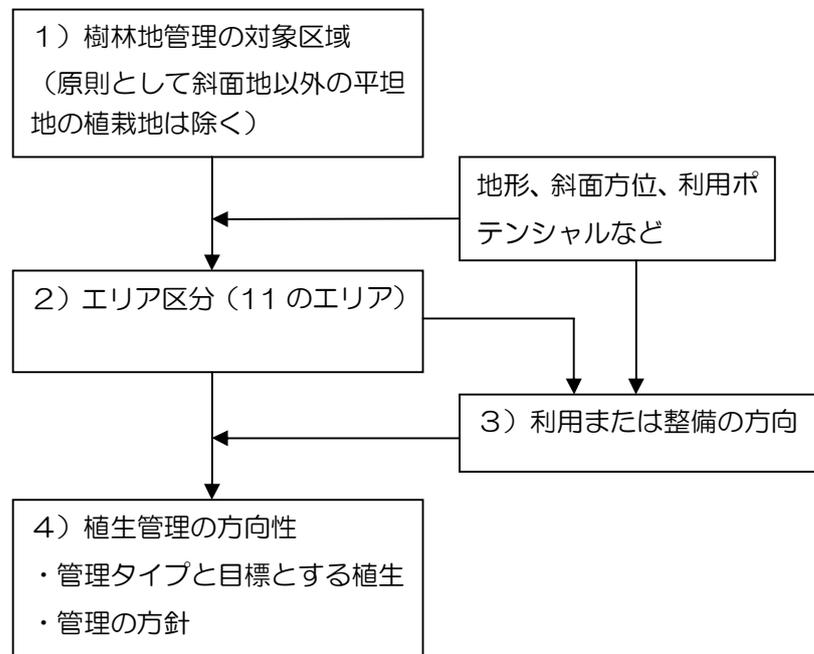
適度な陽光、こもればは、散策や休憩をする利用者にとって好ましい条件である。一方で、間伐や下草刈りなどの管理は継続的に行う必要があり、間伐、除伐によって新たな植物の侵入やネザサの繁茂などさらなる管理を要する結果となる。

南西～西向き斜面の林内の状況



計画対象地の斜面樹林地の状況と利用方針などより、植生管理方針は以下のような流れにより設定する。

■ 植生管理方針の設定



1) 樹林地管理の対象区域

平坦地の植栽地は除く斜面樹林地を対象とする。

2) エリア区分

1) の区域に地形、傾斜度、斜面の方位、現況の植生などを勘案して、11のエリアに区分する。

3) 利用または整備の方向

2) を踏まえ、現況の公園施設や公園の整備方針、またエリアの利用ポテンシャルなどを加味して、エリアの利用または整備の方向を設定する。

4) 植生管理の方向性

2) のエリア区分に、3) の利用または整備の方向を勘案し、植生管理の方向性（管理タイプと目標とする植生、管理方針）を設定する。

本計画では、今後の樹林地の管理の方向を示すため、以下の2つの基本的な植生管理タイプを設定し、エリアごとの特性、利用方針などに対応した方向を設定する。

●基本的な管理タイプ

【タイプA】：常緑系の亜高木層の間伐、低木層の伐採など、見通しを確保するため、常緑系の密度を調整する方向で管理する。

タイプA：現況が主に北東向き斜面又は急傾斜や谷地で利用に適さない樹林地

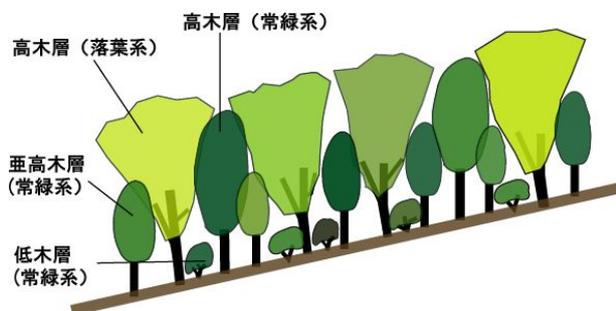


常緑系の亜高木層の間伐、低木層の伐採など、見通しを確保するため、常緑系の密度を調整する方向で管理する。

●目標とする植生→「里山型混交林」



タイプA（現況）



タイプA（管理の方向）



【タイプB】：高木層、亜高木層の間伐や低木の伐採などで樹木密度を下げ、さらに定期的な下草刈りなどにより、クヌギ・コナラを中心した明るい林床の雑木林として管理する。

タイプB：現況が主に南西向き斜面または緩傾斜で利用に適した樹林地

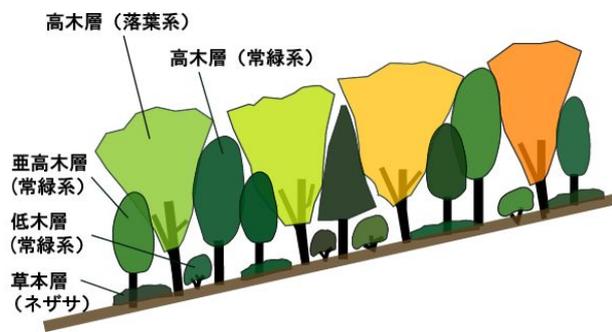


高木層、亜高木層の間伐や低木の伐採などで樹木の密度を下げ、さらに定期的な下草刈りなどにより、クヌギ・コナラを中心した明るい林床の雑木林として管理する。

●目標とする植生→「里山型クヌギ・コナラ林」



タイプB（現況）

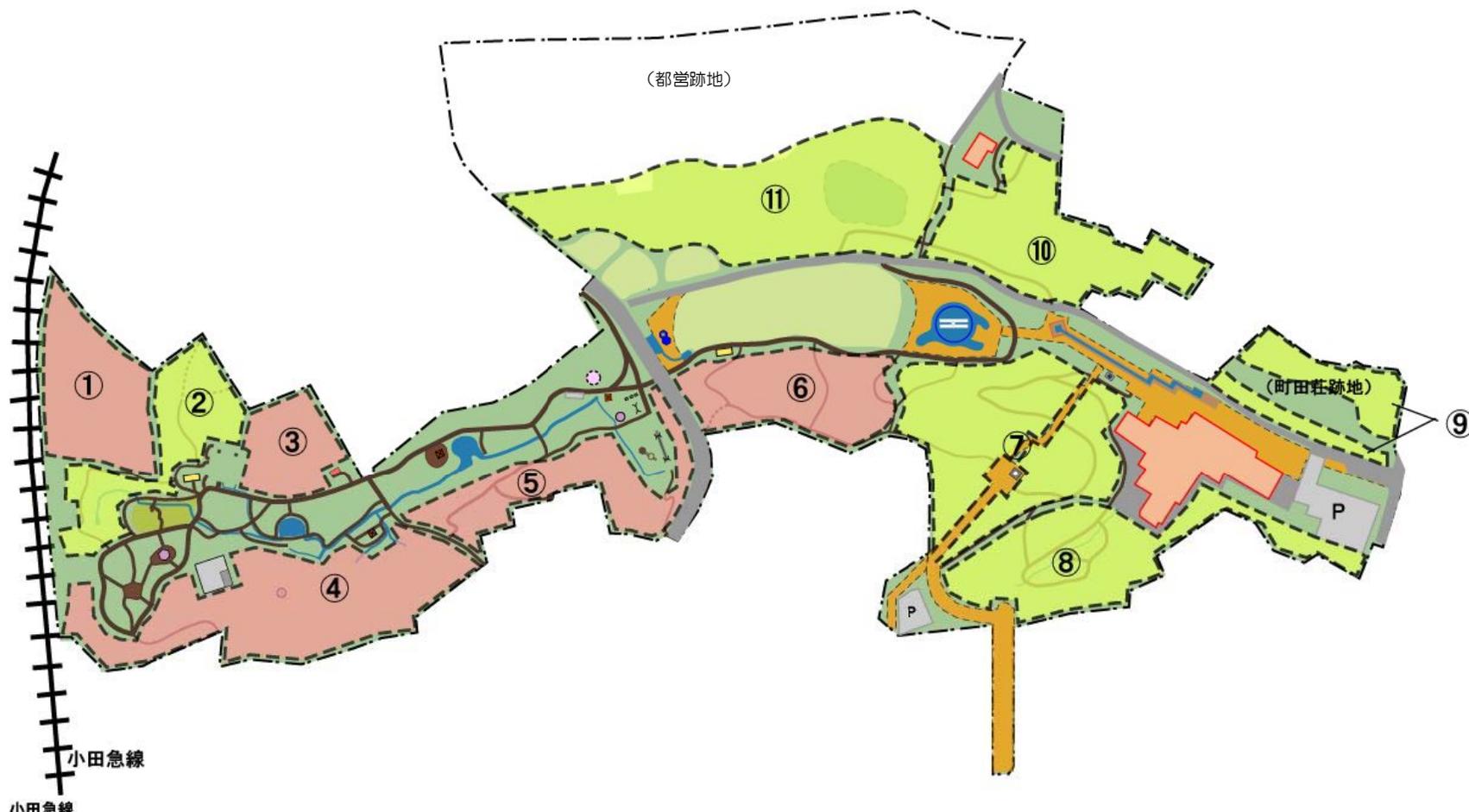


タイプB（管理の方向）

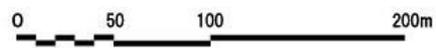


■エリア別植生管理タイプと管理の方向

エリア区分No.	植生管理エリア	地形、方位等の特性等						現況の植生			利用または整備の方向	植生管理の方向性					
		地形・傾斜	方位・日照の概況	傾斜方位						植生の概況		常緑優占林	常緑樹主体の常・落混交林	落葉樹主体の常・落混交林	管理タイプ	目標とする植生	エリアごとの管理の方向
				西	南西	南	南東	東	北東								
①	小田急線土堤南側斜面	谷戸先端部でやや急峻である。斜面下に湧水が見られる。	西向き斜面で、谷先端部であるため日照条件は良くない。							「自然保護林」とされてきたため、シラカシ、アラカシなど常緑樹が優占して地域の自然植生であるシラカシ林への遷移が進んでいる。				線路と住宅に挟まれ一般利用に適さないが、倒木等の除去、小田急線からの公園内の一定の見通しを確保しつつ、郷土の自然に近い植生環境における植物、野鳥、昆虫などを観察できる自然観察林とする。	A	里山型混交林	倒木の除去、過密な低木層を除去して小田急線からの一定の見通しを確保するなど最小限の管理を行いつつ、亜高木層を残して遷移に委ねる方向で管理する。
②	レストコーナー東側斜面	一部急峻な箇所があるが、比較的広い平坦地もある。レストコーナーの下部に湧水が見られる。	谷が狭く、斜面の方向の割には日照条件が良くない。							クスギ、コナラ林で常緑樹の侵入は①に比べてやや少ない。				休憩、滞留、散策できる空間として、斜面に散策道を整備する。住宅地に近い場所に平坦なクスギ林があり、休憩・散策広場として利用する。	B	里山型クブギーコナラ林	高木層、亜高木層の間伐や低木の除去などで樹林密度を下げ、クスギ・コナラを中心とした明るい林床の落葉広葉樹林(雑木林)として管理する。
③	警備員室北側斜面	傾斜は急峻である。	南向き斜面で日照条件は良い。密度の高い樹林地により、北側のレストコーナーの日照が悪くなっている。							南向斜面で本来の暖帯性植物であるシラカシ、アラカシなど常緑樹が優占しつつある。高木層、亜高木層、低木層が発達して暗い樹林地となっている。				日照条件は良く、傾斜も急ではないため、利用ポテンシャルは高い。シラカシの大径木などを中心に常緑樹が優占しており、地域の自然植生(シラカシ林)として自然観察、ドングリ拾いなどの場とする。	A	里山型混交林	林内に入れるよう植生密度を下げるため、高木層、亜高木層を適度に間伐する。地域の自然植生であるシラカシ、アラカシなど常緑系中心の里山林(常緑・落葉樹混交林)として管理する。
④	花木園～花見広場西側斜面	傾斜は急峻で、斜面下には湧水が見られる。	東～北向き斜面で日照条件は良くない。							日照条件が良くないため、草本層(下草)の発達は見られない。				やや急峻で東～北斜面で滞留型の利用には不向きであるため、公園区域外の街路と結ぶための道のみ散策道として整備する。	A	里山型混交林	シュロ、ヤツデ、アオキ、自然実生で増えたツバキなど常緑系の低木層を除去して見通しを確保しつつ、亜高木層を残して常緑系中心の里山林(常緑・落葉樹混交林)として管理する。
⑤	大池周辺西側斜面	傾斜は急峻で、一部崩落が見られるなど不安定な箇所がある。斜面下に湧水が見られる。	東～北向き斜面で日照条件は良くない。							落葉樹が主体の混交林であるが日照条件が良くないため、草本層(下草)の発達は見られない。				東～北斜面で気温の高い季節以外の滞留型利用にはやや不向きである。公園区域外の街路と結ぶための道のみ散策道として整備する。	A	里山型混交林	シュロ、ヤツデ、アオキなど常緑系の低木層を除去して見通しを確保しつつ、亜高木層を残して常緑系中心の里山林(常緑・落葉樹混交林)として管理する。
⑥	多目的広場西側斜面	傾斜は急峻で、一部表流水で浸食された箇所がある	東～北東向き斜面で日照条件は良くない。							落葉広葉樹林(二次林)に常緑樹が入っている。低木層には実生のアオキ、ヒサカキ、シュロなどが多く見られる。反対側の南～西斜面に比べ草本層の発達が弱い。				やや急峻で東～北斜面で滞留型の利用には不向きであるため、公園区域外の街路と結ぶための道のみ散策道として整備する。	A	里山型混交林	シュロ、ヤツデ、アオキなど常緑系の低木層を除去して見通しを確保しつつ、亜高木層を残して常緑系中心の里山林(常緑・落葉樹混交林)として管理する。
⑦	森の丘周辺斜面	全体に緩傾斜である。町田市立国際版画美術館日本庭園は分岐した谷戸に立地している。	斜面および台地上の区域で、東及び南東向き斜面で日照条件が良い。							森の丘から、町田市立国際版画美術館に下りる階段付近、美術館裏日本庭園は園地として整備されており、コナラ、ホオノキ、ヤマザクラ、イヌシデ、イロハモミジなど比較的大径木が残されている。				日照条件は良く、現況の公園内では唯一、台地上の園地を有しておりポテンシャルは高い。森の丘に隣接する平坦地を休憩施設などを整備して積極的に活用する。	B	里山型クブギーコナラ林	間伐を実施し、ランチや休憩などで滞留できる明るい雑木林を形成する管理を実施する。
⑧	町田市立国際版画美術館もみじ園周辺斜面	谷戸が北西方向に分岐した谷で、一部急峻な箇所がある。	日本庭園南側半分は北向き斜面、北側半分は南向きであるものの谷が狭く、日照条件が非常に悪い。							モミジなどを中心とした落葉樹主体の樹林地だが、日照条件が悪く通年暗い印象がある。				隣接する高齢者施設、病院との境界部の常緑樹を伐採、落葉樹も間伐して、極力陽光を取り入れ明るい空間として整備する。	B	里山型クブギーコナラ林	日照条件が悪い日本庭園の南側斜面(北向き斜面)は日照を確保するため、隣地境界沿いの常緑系高木層を中心に間伐し、明るい雑木林として管理する。
⑨	町田荘跡地斜面	傾斜は急峻である。	西向き斜面で谷先端部であるため日照条件は良くない。							かつて町田荘の建物外周部の斜面でヤマザクラ、イヌシデ、ミズキなどが見られる。				斜面が急峻で樹林地内には入ることはできない。町田荘跡地の施設の修景緑地として、利用する。	B	里山型クブギーコナラ林	下枝、林床などを除去して町田荘跡地導入施設からの眺望を確保し、明るい落葉広葉樹林(雑木林)として管理する。
⑩	虹と水の広場の東側斜面	傾斜は概ね平均的斜面であるが一部にやや急峻な斜面がある。	西～西南向き斜面で日照条件は良い。							シラカシ、アラカシなど常緑樹が入った二次林だが、スギ、サワラなどの植林も含む。				林内を明るくすることで樹林地として利用する。植物の観察できる案内板、樹名板、散策道、休憩施設などを整備する。	B	里山型クブギーコナラ林	高木層、亜高木層の間伐、特にスギやサワラなど針葉樹を折伐し、ネザサを定期的に伐採することで、滞留できる明るい雑木林として管理する。
⑪	多目的広場東側斜面	傾斜は概ね平均的斜面である。	高ヶ坂団地跡地に続く南向き斜面で前面が多目的広場で日照条件は良い。							コナラ、イヌシデ、エゴノキなど落葉広葉樹林(二次林)にシラカシ、アラカシなど常緑樹が入っている。低木層の発達とともにアズマネザサが繁殖して鬱蒼としている。				散策道のほか、ベンチや冒険道具などの設置し、子供が自然と触れ合える樹林地として整備する。	B	里山型クブギーコナラ林	高木層、亜高木層の間伐、シュロ、アオキ、ヒサカキなど常緑系の低木層の除去、アズマネザサなどの下草刈りを定期的実施、明るい雑木林として管理する。



凡例	
	タイプA 常緑系の亜高木層の間伐、低木層の伐採など、見通しを確保するため、常緑系の密度を調整する方向で管理する。
	タイプB 高木層、亜高木層の間伐や低木の伐採などで樹木密度を下げ、クヌギ・コナラを中心した明るい雑木林として管理する。



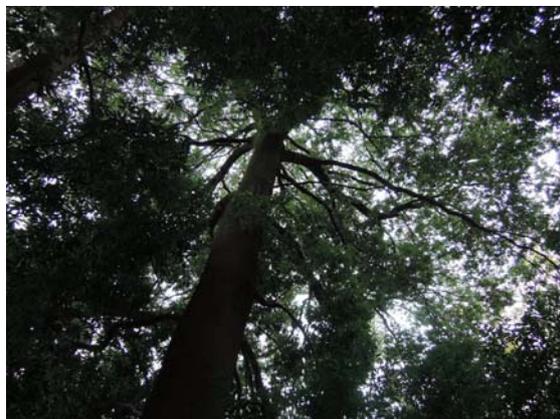
①小田急線土堤南側斜面



②レストコーナー東側斜面



③警備員室北側斜面



④花木園～花見広場西側斜面



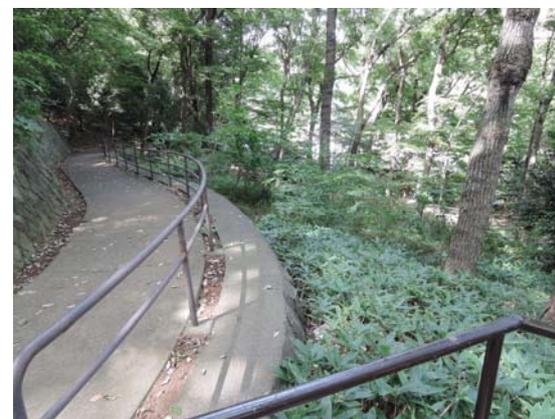
⑤大池周辺西側斜面



⑥多目的広場西側斜面



⑦森の丘周辺斜面



⑧町田市立国際版画美術館もみじ園周辺斜面



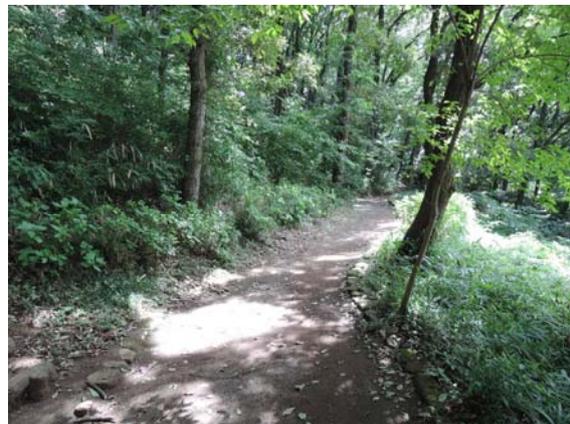
◎町田荘跡地斜面



⑩虹と水の広場の東側斜面



⑪多目的広場東側斜面



(8) 整備水準・概算工事費

再整備基本計画図を踏まえて、ゾーンごとに概算工事費を算出した。

ゾーン名	再整備項目	概算工事費
美術館ゾーン (約 3.5h a)	<ul style="list-style-type: none"> ●カフェ&クラフト体験施設整備 ●舗装整備 (駐車場、建築外構等) ●植栽整備 ●休憩施設整備 等 	¥140,000,000-
アートイベント ゾーン (約 4.3h a)	<ul style="list-style-type: none"> ●多目的広場・ステージ整備 ●トイレ整備 ●舗装整備 ●植栽整備 ●休憩施設整備 等 	¥160,000,000-
芝生ゾーン (約 2.8h a)	<ul style="list-style-type: none"> ●舗装 (グラウンド・芝生含む) 整備 ●(健康) 遊戯施設整備 ●植栽整備 ●休憩施設整備 等 	¥150,000,000-
わき水と花の明るい ゾーン (約 4.7h a)	<ul style="list-style-type: none"> ●アート展示スペース整備 ●遊戯施設整備 ●植栽整備 ●休憩施設整備 等 	¥200,000,000-
各ゾーン共通項目	<ul style="list-style-type: none"> ●既存林の植生管理 ●園路整備 ●電気施設整備 ●給排水施設整備 ●案内板等のサイン整備 等 	¥150,000,000-
直接工事費計		¥800,000,000-
諸経費 (直接工事費の 50%内外)		¥400,000,000-
概算工事費 (15.6h a)		¥1,200,000,000-

(参考) 総合公園 15.7ha 工事期間 2003~2007 年度で、約 11 億円

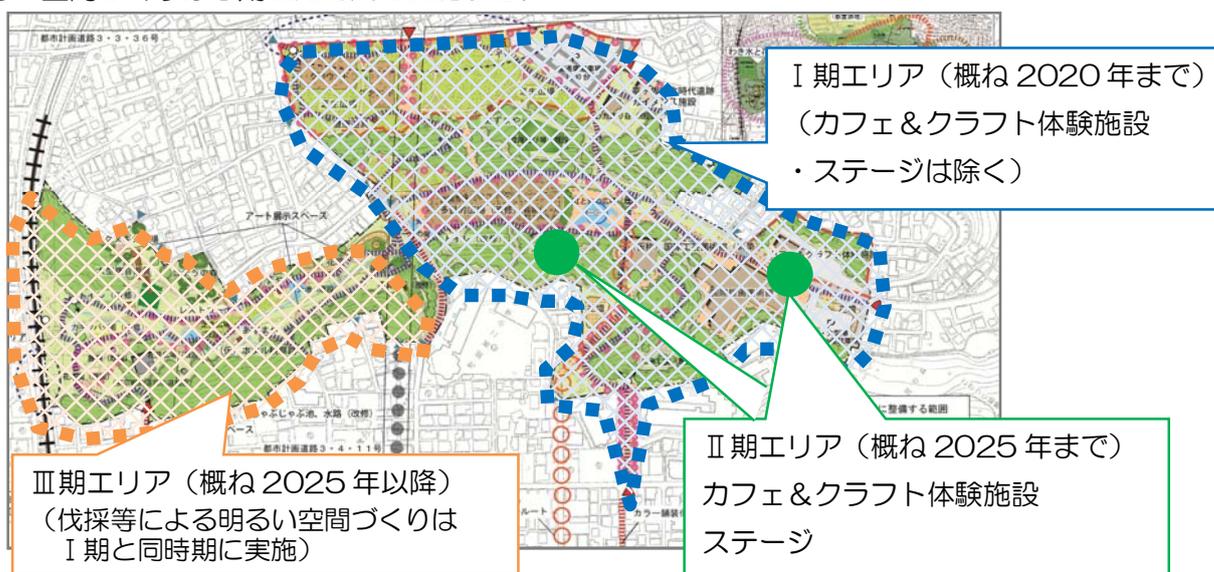
■整備スケジュールについて

ゾーン別に、概算工事費を踏まえながら整備スケジュール（優先順位）を検討した。

優先するエリアは、未整備である芝生ゾーン、および隣接するアートイベントゾーン（ステージは除く）と美術館ゾーン（カフェ&クラフト体験施設は除く）とし、Ⅰ期エリアとする。

続くⅡ期は、Ⅰ期で除いたステージおよびカフェ&クラフト体験施設とする。

また、現況を大きく改変しない「わき水と花の明るいゾーン」はⅢ期エリアとするが、伐採等による明るい空間づくりはⅠ期と同時期に実施する。



①美術館ゾーン整備水準（イメージ）

【カフェ&クラフト体験施設イメージ】 約500㎡

- クラフト体験施設部分（230㎡）
 - ・ エントランス小ホール、受付（40㎡）
 - ・ クラフト体験室（ガラス工房）（100㎡）
 - ・ クラフト体験室（陶芸工房）（90㎡）
- カフェ（70㎡）
- トイレ（工房とカフェの共用）（40㎡）
- 機械室等（全施設共用）（40㎡）
- 管理棟、防災倉庫（120㎡）

【カフェ&クラフト体験施設外構イメージ】

●ブロック舗装（左） 洗い出し舗装（右）



【（仮称）国際工芸美術館】約3,000㎡ 「（仮称）国際工芸美術館整備基本計画（2014年6月）より」

- 展示エリア（約500㎡）
- 交流エリア（エントランス・工房等）（約580㎡）
- 調査研究運営エリア（事務、学芸執務室等）（約500㎡）
- 収集保存エリア・その他（収蔵庫、展示用品倉庫、廊下等）（約1,420㎡）

②アートイベントゾーン整備水準（イメージ）

【高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設】 約 600 ㎡

- 展示スペース（200 ㎡）
- 実習・講習室（40 ㎡）
- その他（トイレ、事務室、倉庫など）（360 ㎡）



【ステージイメージ】



【多目的広場舗装イメージ】



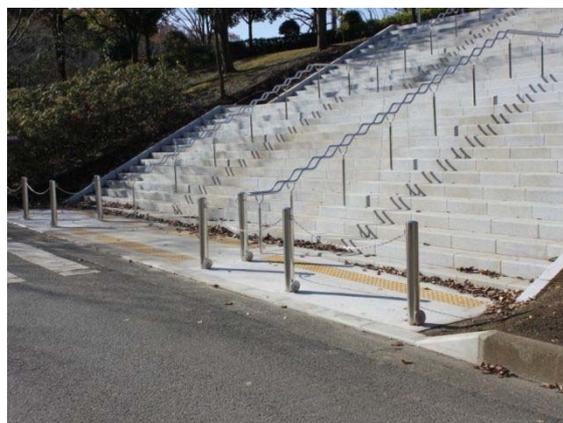
【トイレイメージ】



【ブロック舗装イメージ】



【階段園路イメージ】



【花壇イメージ】



③芝生ゾーン整備水準（イメージ）

【芝生広場イメージ】



【健康遊具イメージ】



【アプローチ園路イメージ】



【防災あづまやイメージ】



【防災ベンチイメージ】



④わき水と花の明るいゾーン整備水準（イメージ）

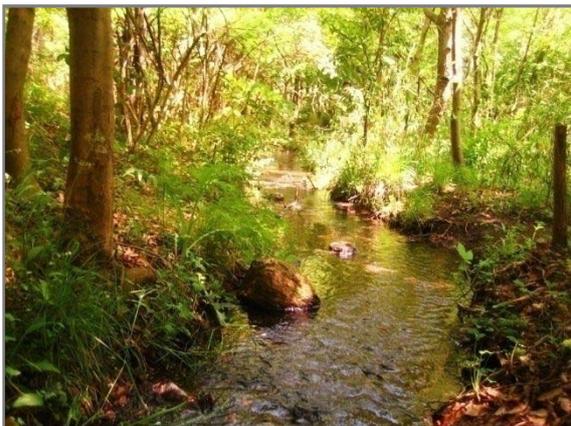
【大型複合遊具イメージ】



【遊具広場イメージ】



【ホタル観察路イメージ】



【レストコーナーイメージ】



◎園路イメージ

【主動線イメージ】



【施設アクセス動線イメージ】



(9) 鳥瞰図の作成

作成中。

6. 維持管理方法の検討と設定

再整備基本計画内容を踏まえて、維持管理方法について管理計画と運営計画の検討を行った。

管理計画は各ゾーン共通で、樹林地管理と植栽地・芝生管理、花壇管理の植栽管理と、工作物管理、安全管理、清掃が項目として挙げられる。

各項目の作業内容と、現時点における課題を抽出して一覧表にまとめた。

また運営計画は、建築物や駐車場等の施設運営と、各ゾーンの施設運営に大別される。現在は直営による運営が主であるが、再整備後は、通常の維持管理とともに施設運営や積極的なイベント運営などの展開を行っていくため、指定管理者制度の導入を視野に入れながら検討していく必要があることから、現時点における課題を抽出して一覧表にまとめた。

いづれも人口減少による税収減という財政上の課題もあるため、民間のアイデアや活力を活用しながら進めていく必要がある。

なお本計画を作成するにあたっては懇談会を5回開催し、地域の代表者と意見交換を行ってきたが、各課題についても、引き続き地域との意見交換を踏まえながら進めることが望ましいため、課題ごとに検討主体と検討時期を明記した。

なお維持管理・運営管理は、公園全体を一つの指定管理制度行う場合と、施設運営は直営で行いそれ以外の運営管理を指定管理者で行う場合の、2つのパターンが考えられる。

公園全体を指定管理制度で行う場合、美術館等の特殊な施設などを含めた公園全体を、統一された維持管理・運営方針を作成し実践していくことで、公園全体のサービスの質が高く、効果的、効率的な管理運営が期待できる。一方デメリットとして、指定管理者選定の事務作業や経費、事業計画が実施されない場合のリスク等もあり、地域活動団体や地元意向の反映に対して、指定管理者と協働関係を構築できる体制を考慮していく必要もある。

施設運営のみ市で行う場合は、新たに整備する施設の運営体制を構築していく必要があるほか、全体の管理経費が増大することが懸念される。

本再整備計画の実施後から、指定管理者制度を導入する場合は、今後進められる基本・実施設計段階において、2つの美術館や各施設の運営に関する基本的考え方を関係機関と調整しながら、確定していく必要がある。

上記を踏まえ、設計・整備段階において、新たに整備予定の施設（カフェ&クラフト体験施設）やイベントについては、社会実験を行いながら公園全体のマネジメント方法について検証することを予定する。

■運営管理項目と検討課題（案）

項目	ゾーン名	名称	内容	課題等	検討主体	検討(開始)時期			
						計画段階 2014~2015	設計段階 2016	整備段階 2017~2020	再整備後 2021~
管理	共通	樹林地管理	樹林維持育成管理 (間伐、下草刈り等)	・生物多様性や、安全・快適性を考慮した定期的な樹林地管理 ・明るいイメージ継承のための樹林地育成管理マニュアル等の作成	市		●————→		
		植栽地、芝生管理	剪定 徒長枝刈込 草刈り 等	・現在の管理内容の継続	市		●————→		
		花壇管理	植替 水やり 草刈り 等	・どのような仕組みで管理を行うか (指定管理者主導によるボランティアなど)	市・および市民との連携		●————→		
		各種工作物管理 (定期点検)	保守点検 遊具等安全点検	・施設更新に合わせた管理（遊具、親水施設）	市		●————→		
		安全管理	パトロール	・管理・運営の中で検討	市・および市民との連携		●————→		
		清掃	一般清掃 トイレ等施設清掃	・現在の管理内容の継続 (一部の清掃をボランティア等との協働することも検討できる)	市・および市民との連携			●————→	
運営	共通	駐車場	施設運営	・公園施設の更新やイベントなど利用増進に合わせた駐車場のレイアウトと適切な運用	市		●————→		
		バーベキュー広場	施設運営	・ソフト事業として展開するため場所の選定	市・および市民との連携	●————→			
		ドッグラン	施設運営	・運営方針や内容の検討	市・および市民との連携	●————→			
		イベント	桜祭り、時代祭り アートイベント その他イベント	・占用する場合の、許可等の運営ルール ・各種イベントの状況把握 ・イベントの提案力	市（2016に社会実験を予定）	●————→			
	美術館ゾーン	(仮称)国際工芸美術館	施設運営 イベント・企画運営	・運営方針や内容の検討	市	●————→			
		国際版画美術館	施設運営 イベント・企画運営	・現在の管理内容の継続	市	●————→			
		カフェ&クラフト体験施設	施設運営 イベント・企画運営 カフェ経営	・クラフト体験施設の運営方針や内容の検討 ・カフェ施設とクラフト体験施設は、併設するか独立するか。	市（2016に社会実験を予定）	●————→			
	アートイベントゾーン	冒険遊び場	施設運営	・自主運営（児童課からの委託）の継続検討	市、市民		●————→		
		ガイダンス施設	施設運営 イベント・企画運営	・運営方針や内容の検討	市		●————→		
		ひだまり荘	施設運営	・指定管理者の運営か運営協議会の運営か	市・および市民との連携		●————→		
		多目的広場	施設運営	・ステージのニーズ等の把握 ・虹と水の広場の安全な運用方法	市・および市民との連携		●————→		
	芝生ゾーン	グラウンド	施設運営	・既存団体との調整 ・使用用途（キャッチボール、サッカーのボール蹴り、ゲートボール）	市・および市民との連携	●————→			
	わき水と花の明るいゾーン	コナラの森 クスギの広場	施設運営	・樹林地管理と同様	市・および市民との連携		●————→		
		(仮)ホテル散策路	運用方法	・ホテルの増殖は、自然繁殖か養殖か。養殖の場合、自然環境に悪影響を与えない手法の検討	市・および市民との連携		●————→		
		アート展示スペース	運用方法	・学校等と連携して期間限定で作品展示（例えば1年毎、半年毎に作品を更新）	市・および市民との連携		●————→		
エントランス公園敷地外	アートのストリート	運用方法	・中心市街地整備基本計画と整合を図る	市		●————→			
	バス	運用方法	・運行ルート、費用の面などさまざまな視点から検討する必要がある	市・および関連事業者		●————→			

芹ヶ谷公園再整備基本計画（案）報告書

2016年（平成28年）3月

町田市